

# 対馬に赤誠を尽くす



対馬市長

財部能成



新年あけましておめでとうございませう。

ご家族皆様お揃いで、穏やかな笑顔溢れる新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日ごろから市政に対し深いご理解とご支援、ご協力を賜り心から厚く御礼申し上げます。

昨年、対馬は「災害の年」でありました。

その一言でくくれる程、予期せぬ想定外の事象が対馬に襲いかかり、9月は経験したことのない強烈な嵐が吹き荒れ、島の各地に様々な傷痕を残しました。

海上では竜巻が起り船が転覆。陸上では50年に一度の大雨が一部の地域や地区を襲いました。とりわけ、今回の嵐は尊い人命を奪い、自然の脅威に立ちすくむ以上にどこにもぶつけないことのできない腹立たしさが沸き起こりました。

そのような中、やりきれない感情がかき消される出来事に遭遇しました。

河川の突堤が決壊し、対馬特有の石屋根風倉庫が流され、ま

た家屋のほとんどが床上浸水した集落での出来事でした。

被災直後、その惨憺たる光景を見せつけられ自然の猛威に圧倒されました。

被災された方々は何から手を付けてよいのやら呆然とされている状況で、水没した家財道具などを整理されている顔から失望感や無力感などが窺えました。

しかし、被災から4日後、島内から集った百人以上のボランティアが、日没まで瓦礫や屋内に流れ込んだ土砂の除去作業に従事し汗を流されました。これを境に集落内に立ち込める重苦しい空気が一変しました。

このボランティア活動が、被災し途方に暮れていた地区の方々の心に希望の灯を点しました。ボランティアのお陰で『地域の明日』がボンヤリと見えるようになったのです。

陽も落ち、作業が終わり、地区の方がボランティアの人達に感謝の言葉を返されました。

「80年余りの人生で今日の日はど他人様の温かいお気持ちに感謝した日はない……」あとは

言葉にならなかつたそうです。

翌日もボランティアの方々が地域に入り、被災地域の人達は前日にも増して背筋をピンと伸ばし前を向き取り組まれた作業は、格段に進展しました。

10月には地域の方の頑張りで傾いた倉庫や家屋は撤去され地域の姿や映像が以前と明らかに変わりました。

そのように地域が生まれ変わったのは「地域内の若者」がいた事も大きな要因であり、その行動力と決断力に地域全体の老若男女が信頼を寄せ、専ら委ねたからに他ありません。

その感動の日から2ヶ月後のある日、別の集落で若者6〜7人が遊休地化していた畑に入っている光景に遭遇しました。

車を止め、若者達に話を聞くと、農業未経験者の若者達で、「その土壌に適した、また地域が保有している農地面積にあつた農作物は何なのか？」と模索を始め、そこから若者だけで話し合いを重ねてきたそうです。そして、ある作物に行き着き、

自ら先進地に出向き、種子を購入してグーグル検索頼りで、作付けから収穫までを3年間みっちり検証して、取り組んでいる最中なのだとの事でした。結果が良ければ地域住民に勧めようとの考えでやっているとの事。

その構想に賛同したその地域の人達は、10戸ほどの小集落にも関わらず10万円という大金を彼らにポンと補助されたそうです。地域の次なる方向性を模索している若者の姿に心打たれたためと推察しました。若者達は予期せぬ助成に地域の期待を感じ、しっかりと結果を出そうと頑張っていました。

これからの日本全国の自治体で少子高齢化が進行し、生産人口が不足する事態に直面します。欧州のように他国からの移民受け入れという短絡的な話にはなりません。

このような難局をしのぐための「鍵」は元気な高齢者の方々が生産にどう参画されるかだと彼らは分かっているのです。

もう一つの「鍵」は、「ざとり世代」といわれる現代の若者は、「未来」に対する「憧れ」が以前の私たち世代よりも薄いそうです。「お洒落なライフスタイル」に憧れ、それらをターゲットにした商品が売れるという、まさに「贅沢」の捉え方が消費文化に根差したものであつたように思いますが、現代の若者が未来を構築するために大切にしているのは「人間関係」に根差した「共感」だそうです。

そのような「ざとり世代」が

若者世代を担っているからこそ、社会とのつながりや地域の中で多世代が手をとりあいながら、仕事の棲み分けと連携をしっかりと作り上げる好機なのかもしれない。

ここ数年、対馬に愛を届ける島外の人達が増えましたし、内側からも対馬愛を叫ぶ若者が増えていきます。

多世代が連携する「地域コミュニティ」が高齢化社会に対応していく事に皆さんも気づいていらつしやるけれども、第一歩目をどのように踏みだそうかと思案されているように感じます。

ところが、実は、すでに私達の島には踏みだす好機が訪れているのです。

対馬市はほかの地域より5年早く高齢者人口が最多を迎えます。2025年問題ではなく2020年問題なのです。

そのため、対馬市は昨年春より「地域包括ケアシステム」という、行政側が「こうしよう」とはまだ明確にはなっていないシステムに進んで行くこととしています。

全国の地域ごとに千差万別の態様のなか、国も手法を示せないという事情があります。だからこそ、地域内の老若男女を問わず、多世代、多職種でスクラムを組み、この難局を乗り越え、次世代にこの対馬を引き継ぐしか方法はないのです。

ところで2期8年間『市民協働』を標榜し、市民に安心安全を提供するため、自らの全能力

を傾注し邁進してきましたが、権不十年という言葉もありましたように長きにわたって座り続ける椅子とは思えませんが、自治体の民主主義システムにも限界を感じることもあり、今期をもって市長職から引退させて頂くことといたしました。

この間、晴れた日も雨の日も支えて下さった多くの市民の皆様

様に御礼と感謝を申し上げます。12月初旬、被災地区で九州交響楽団の9人の奏者が被災民を激励するため、ミニコンサートを催され、立見が出るほど埋め尽くされた公民館には感動の涙に頬を濡らした方々がいました。直ぐに花を咲かせたいならば、「種」を蒔きましょう！

樹」をしましよう！夢を咲かせようと考えたらば、「人」を育てましよう！市民の皆様にとって、また対馬にとって幸多からん素晴らしい一年となりますよう祈念し新年の言葉といたします。

財の一部が返還されました。私は市長とともに文化庁を訪問し、韓国からの移送のお礼と、残る文化財の返還を強く要望してまいりました。さて、市議会には、4つの特別委員会を設置しております。国境離島活性化対策特別委員会では、国境離島新法制定対馬市総決起大会の開催、国会議員や省庁への要望活動を数回にわたって実施いたしました。国境離島新法の法案は、与党で原案どおり了承され、国会提出に必要な手続きを終えております。今後につきましても更なる要望活動を行い、早期制定を目指してまいります。

委員会では、厳原地区から公的病院がなくなったことに対する市民の不安を払拭するため、いづはら病院の跡利用に關して、直営診療所と特別養護老人ホームが一体となった施設としての有効活用が実現するよう調査・研究を行っており、市民の安全・安心の確保に向けた取組を行っております。さて、21世紀の分権時代のさらなる推進に向け、地方再生が求められる今日、地方自治体の自主自立が一層重要となります。市議会といたしましては、市民の皆様のご意見を伺いながら、より市民に開かれた透明性の高い議会をめざし、さらなる議会改革や、現行制度における活発な議論を通じた議会審議の一層の活性化に取り組み、議決機関としての市議会の責務を着実に果たしてまいりたいと考えております。そして、あらゆる世代が夢や希望を持ち、ともに成長でき、穏やかに暮らせる安全・安心のまちづくりを、市民の皆様と一体になって進めてまいりたいと決意しているところでございます。

# 新年のごあいさつ



対馬市議会議員

堀江 政武



新年あけましておめでとうございませう。

市民の皆様におかれましては、ご健勝で希望に満ちた新春をご家族おそろいでお迎えのことと心からお喜び申し上げます。平成28年の年頭にあたり市議会を代表いたしました、ここに謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、日ごろから市議会に対して多大なるご理解とご協力を賜り心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、イスラム過激派組織による邦人人質事件やパリで起きた同時テロ、海外自動

車メーカーの排ガス規制違反やワクチン製造にかかる不正、地球規模の異常気象で、世界各地で災害が発生するなど、人々を不安にさせた1年でした。

対馬市においても、9月の竜巻による漁船転覆事故や集中豪雨が発生しました。ご遺族や被害に遭われた皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

私たち人間は自然の前では無力であるからこそ、互いに助け合い、力を寄せ合う知恵を授けられていくのだと感じます。防災対策を急ぐのはもちろんですが、人の力の結集で被害を最小限にとどめられる1年と

なりますことを願う次第です。

昨年は、国内経済には若干の景気回復の動きが見られたものの、本市経済においては厳しい状況が続き、まだその先行きは不透明であり、決して予断を許す状況ではありません。

そうした中、5月に、多くの市民が完成を待ち望んでいた長崎県対馬病院が開院し、喜びの声があふれました。県内離島初の放射線治療装置を導入し、より高度な医療が提供され、市民の安心・安全の確保が図られております。

また、7月には、韓国人窃盗団による盗難被害に遭った文化

国県道路等整備促進特別委員会では、島の活性化の基盤である国県道路の整備促進、本土とを結ぶ離島航路の整備充実や運賃の低廉化などの改善に向け、積極的に取り組みを行っているところであります。

議会改革特別委員会では、対馬市議会の議員定数と議会改革に係る調査、研究に取り組みしており、議員定数については、参考人の招致やパブリックコメントの募集を行い、市民の皆様からのご意見を伺いました。最終的に議員定数を19人に削減することに決定し、3月定例会に条例改正案を提出する予定としております。また、政治倫理条例の改正や、一般質問のあり方等について見直しを行い、現在は、議会基本条例の制定について調査・研究を行っております。

いづはら病院跡利用調査特別

委員会では、厳原地区から公的病院がなくなったことに対する市民の不安を払拭するため、いづはら病院の跡利用に關して、直営診療所と特別養護老人ホームが一体となった施設としての有効活用が実現するよう調査・研究を行っており、市民の安全・安心の確保に向けた取組を行っております。さて、21世紀の分権時代のさらなる推進に向け、地方再生が求められる今日、地方自治体の自主自立が一層重要となります。市議会といたしましては、市民の皆様のご意見を伺いながら、より市民に開かれた透明性の高い議会をめざし、さらなる議会改革や、現行制度における活発な議論を通じた議会審議の一層の活性化に取り組み、議決機関としての市議会の責務を着実に果たしてまいりたいと考えております。そして、あらゆる世代が夢や希望を持ち、ともに成長でき、穏やかに暮らせる安全・安心のまちづくりを、市民の皆様と一体になって進めてまいりたいと決意しているところでございます。

今後とも市民の皆様には、市議会に対してまして、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、本年も、市民の皆様にとりまして素晴らしい年になりますことを心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。